

3 事業効果② ー緑の活用による波及的な効果ー

緑の活用による波及的効果とは、緑地整備、緑化活動を行うことにより、直接的または間接的に住民にもたらされる効果のことを言い、この効果を環境学習、教育環境向上、コミュニティ形成、心理的効果、地域核の創出等に大別し、効果の検証を行った。

3-1 環境学習効果

都市化、少子化などの社会の変化により、子どもたちの成長に欠かせない自然と直接触れ合う機会が乏しくなるなか、地域に身近な緑地があることで野鳥や昆虫、植物の観察や秋には落ち葉や木の実といった遊びの素材の提供など、子どもたちに自然を体験する機会を提供することができる。幼少期に園庭や校庭など身近に自然があふれるところで夢中になって遊んだ経験は、目標に向かって頑張る力や人と関わり合う力の育成に繋がる。

また、幼少期の環境は生涯にわたる価値観に影響を与えるため、幼い頃に慣れ親しんだ環境を未来の社会に作ろうとする。幼少期に園庭を介して自然に親しむことで、自然と共生する社会、持続可能な社会を思う子どもの育成に繋がるといわれている。^{*}

当事業では、県民参画による緑化を理念とし、芝張りや低木植栽などの作業を県民自らが行っている。

これにより、県民が自然に触れ合い、自然の素晴らしさ、不思議さ等を再認識することにより、当事業が環境学習に一定の役割を果たしていると言える。



園児、父兄、先生による植栽

^{*} 公益社団法人国土緑化推進機構「森と自然を活用した保育・幼児教育のガイドブック」2018年

3-2 教育環境向上効果

(1) 施設面の環境向上

学校、幼稚園、保育園等で行う校庭の芝生化は、夏季の照り返しの抑制や運動場の土埃、砂埃の飛散防止など、保育環境・教育環境の向上・改善に役立っている。

校庭の芝生化を実施した学校、幼稚園等へのアンケート調査^{*}では、緑の増加に伴う景観の向上、防塵効果、生き物の増加や気温上昇の軽減等を実感していることが分かった。

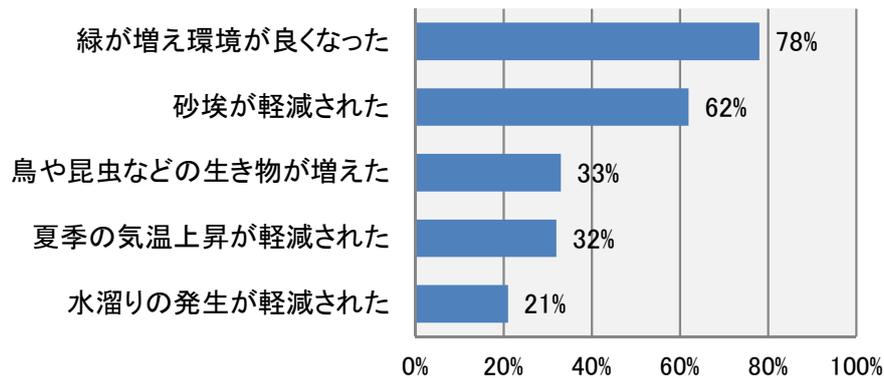


図 環境面での芝生化の効果（アンケート調査）

(2) 児童・園児の運動能力向上や自然への関心の高まり

一般的に芝生化することで擦り傷などの怪我をしにくくなるため、外遊びの機会が増加し、体力や運動能力が向上すると言われている。さらに、外遊びを通じ、児童同士のコミュニケーション機会が増加するなど、芝生化にはコミュニケーション促進の効果があるとされている。

同アンケート調査でも、芝生化後、ケガの減少・軽症化、外遊びの増加や生き物や自然に興味を持ったなどの回答があり、当事業でも、芝生化が体力、運動能力の向上や教育環境の向上などに役立っていることがうかがえた。

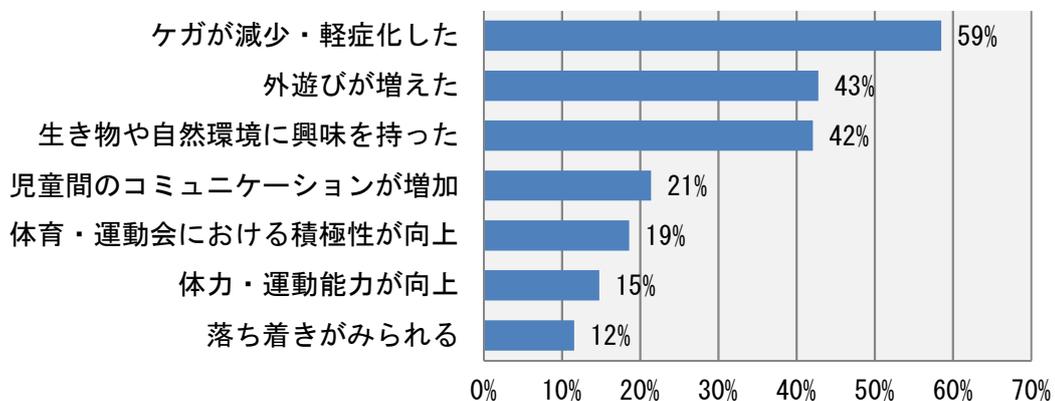


図 子ども達への芝生化の効果（アンケート調査）

^{*} 兵庫県 県土緑化のあり方等に関する調査研究業務報告書〔校庭の芝生化状況調査〕；(H28)

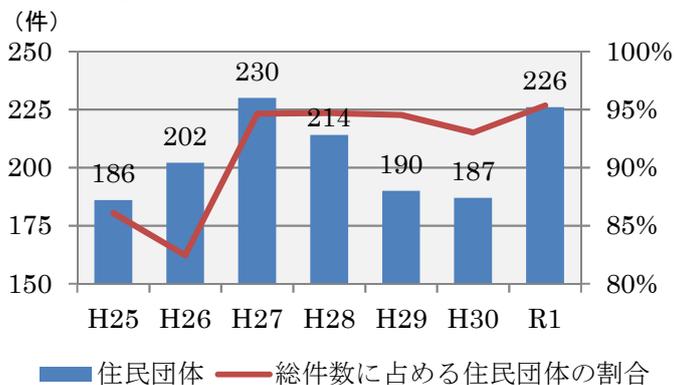
3-3 コミュニティ形成効果

植栽や維持管理等の緑化に関わる活動は、緑に愛着を持ち育てるだけでなく、地域住民間の交流を図ることができ、地域コミュニティ形成や地域交流の拡大に寄与している。

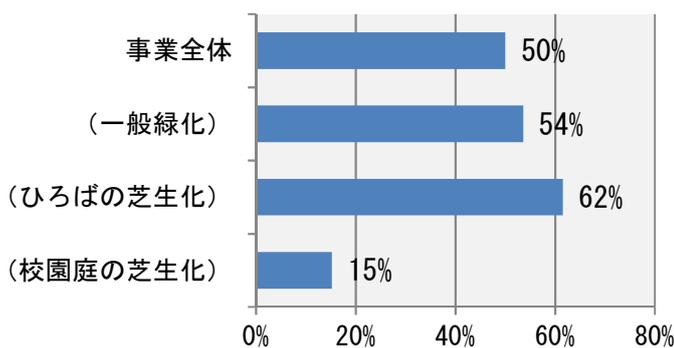
年間約 200 件の住民団体が当事業を利用して緑化活動を行っており、全申請のうち9割以上を占めていることから、多くの住民が主体的に地域の緑化に関わっていることがうかがえる。

自治会や老人クラブ、幼稚園等が一体となり地域の広場を芝生化し、祭りや運動会など地域交流の場として活用している事例や住民間の連帯が薄れてきた自治会において、植栽の維持管理活動を継続的に行い、住民間の交流機会が増加した事例などに活用されている。

当事業により地域コミュニティの形成や地域交流の拡大に寄与していることがうかがえる。



維持管理活動を行う地域住民



専門家による剪定の指導

図 事業により地域交流が増加したと感じた割合 (アンケート調査)

最近では、樹種や植栽箇所など住民の意向を反映した植栽計画の策定や植栽後の樹木の剪定を自ら行うために専門家からアドバイスを受けたり、ワークショップを開催したりする事例が増えてきている。

こうした場合、植栽後、住民自らが積極的に維持管理活動に参加するため、良好な緑地が保たれるとともに、地域コミュニティ活動が活発になる傾向が見受けられる。

県民まちなみ緑化事業を活用し積極的な緑化活動を行う住民団体も多く、「全国花のまちづくりコンクール」や「みどりの愛護功労者」など全国の緑化活動に関する表彰を多数受賞^{*}している。住民による先進的な緑化活動は全国的にも高い評価を得ており、地域のみならず兵庫県の緑化ブランドづくりに寄与している。

^{*} 県民まちなみ緑化事業を活用した団体のうち、全国花のまちづくりコンクールは3団体、みどりの愛護功労者は14団体が大賞（国土交通大臣賞）を受賞している。

3-4 心理的効果

緑には視覚疲労や肉体的疲労など、疲労感を和らげる効果や精神的ストレスの解消、自然と触れ合うことによる癒し効果などがある。また、新緑や草花など植物の放つ多様な香りは、人々に華やぎと安らぎとを与える。

県民を対象としたアンケート調査（令和元年度第1回県民モニター調査）においても、街なかの緑が持つ機能で特に重要と思うものは何かとの質問に対し、回答者の54.4%が「見る人の心をなごませる」と高い割合での回答があった。

このことから、県民が緑化に対し、心理的な機能・効果を期待していることがうかがえる。

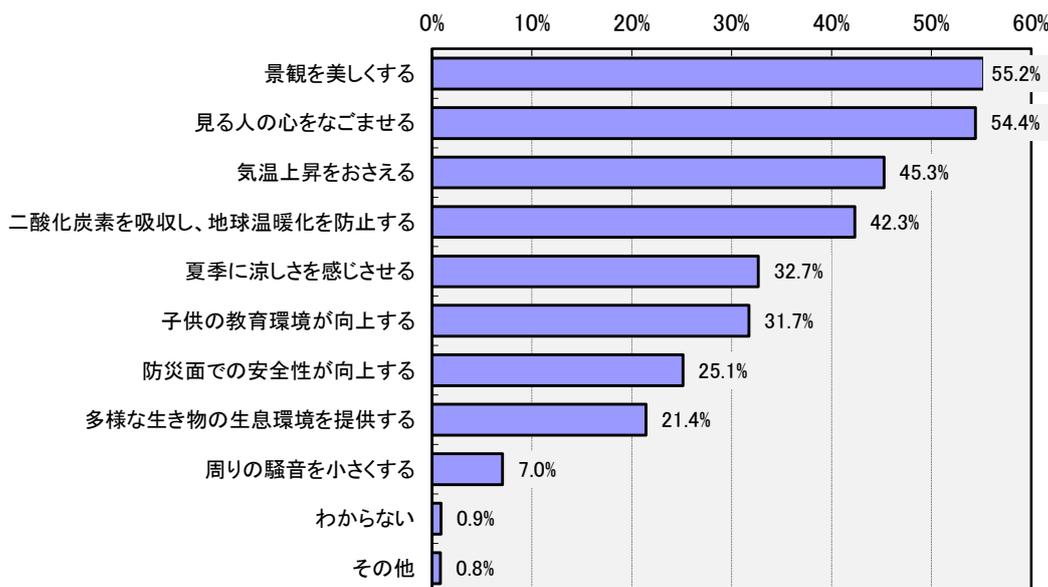


図 街なかの緑が持つ重要と思う機能（R1 年度第1回県民モニター調査）

園芸療法は、園芸が人の精神や身体に与える効用に注目して疾患や障害の有無を問わず、すべての人々に健康の増進や生活の質の向上を目的として行う療法である。

園芸活動による適度な運動、精神的ストレスの軽減、コミュニケーションの促進を図り、心の健康、体の健康、社会生活における健康を回復するもので医療、福祉分野に貢献している。



園芸療法のイメージ
（兵庫県立淡路景観園芸学校 HP より）

これまでの学術研究により、自然景観を見ることによる「みどりの景観による癒し」がストレス回復に、バラの生花を見ることによる「植物による癒し」が生理的リラクゼーション促進に、ガーデニングの「栽培による癒し」が認知症予防に、フラワーアレンジメント後の「創造活動による癒し」が気分を改善しストレス減にそれぞれ効果があると報告されている。

当事業においても、病院や福祉施設において敷地内を緑化し、患者や入所者の散策や憩いの場として活用されている。

3-5 地域核の再生・創出

シビックプライドは従来の郷土愛とは異なり、そこに住む住民が地域に対して誇りや愛着をもつだけでなく、この地域を構成する一員として地域をより良い場所とするために関わっているという意識を伴うもので、近年その概念が注目されている。

官民協働の都市再生手法による都市の個性化を図ろうとする施策の効果が住民の実感として受け入れられていないという課題に対し、シビックプライドによる地域の再活性化の手法は、これまで対外的な効果ばかりに置かれていた施策の重心を対内的な評価に移すことで住民がつくり出す地域の魅力が対外的な競争に繋がるという点に新しさがある。

当事業により地域文化と関連の深い樹種の植栽や移植などを通じて住民が地域特性に気づくきっかけとなるだけでなく、地域住民が共有する誇りとしてまちづくりに活かされている。

参考 日本一の里山を思い起こさせる人口集中地区内の公園

キセラ川西せせらぎ公園の整備において、子育て世帯から60歳代までの幅広い世代の市民が2年間ワークショップを行い、整備計画を策定。室町時代から現在に至るまで、燃料供給のため木々の伐採と再生を行う里山としての利用・管理が行われていることから、日本一の里山と称される市北部の黒川地区より、茶道で使用される菊炭の原料となる台場クヌギや絶滅が危惧されるエドヒガンザクラを移植し里山の情景を再現した。里山の情景の再現は、多くの市民が地域の伝統、文化などの地域特性や黒川地区の歴史的背景に気づくきっかけとなった。

また、隣接するせせらぎと一体的に多様な生物が生息できる自然環境を再現し、市民の心の拠りどころとなるよう整備された。ワークショップ後も維持管理や公園活用の検討を行ったり、公園利用後に自主的に草抜きを行うグループが現れるなど、市民が主役の公園となりつつある。



移植したエドヒガンザクラ（中央）



移植した台場クヌギ

3-6 その他の効果

(1) 生物多様性の確保

生物多様性は、人類の存続の基盤であるとともに、地域における固有の財産として地域独自の文化を支えるなど、様々な恩恵をもたらす。

都市における緑地は、そこで生きる生物の生息・生育の場として重要であり、都市住民にとっても身近な自然とのふれあいの場として貴重な空間である。

都市住民の生活についても、生物多様性のもたらす恩恵を享受することで成り立っており、都市づくりを進める上でも生物多様性の確保に配慮することが必要である。

当事業では、外来種[※]から在来種への植え替えにより生物多様性の確保に寄与した事例や地域固有の在来種の植栽により住民の在来種の保全意識を高めた事例がある。

※ 特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律で指定された特定外来生物、要注意外来生物及び兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）（2010）で指定された種は補助対象外としている。また、特定外来生物等から在来種等への植え替えを補助対象とすることにより、侵略的外来種の植栽を防ぎ、生物多様性の確保に配慮している。

(2) 健康増進効果

緑地が増えると、そこで園芸活動をしたり、運動をしたりする人が増えるため、緑には健康増進の効果があると言われている。

当事業がきっかけとなり、地域の高齢者や就学前の親子が散歩コースや目的地として訪問することとなったり、地域の老人会が芝生化した広場や、グラウンドゴルフの場として活用されている事例などが見受けられる。



事業箇所ではグラウンドゴルフを行っている様子